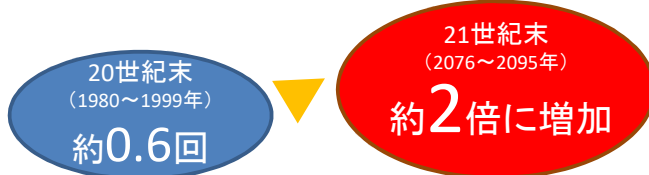


大東島地方 大雨の回数が増えます （沖縄本島地方を含む） 一方、雨の降らない日も増えます

（※現状の対策のままで温室効果ガスの排出が続いた場合の予測）



21世紀末には、滝のように降る雨（1時間降水量50mm以上）の回数が増えると予測されています。

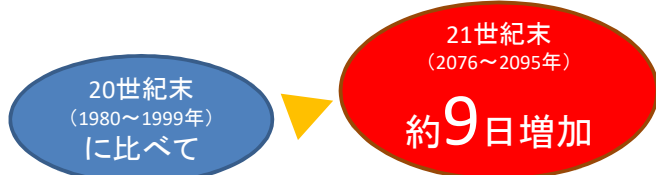


大東島・沖縄本島地方の1時間降水量50mm以上の年間回数(1地点あたり)の変化

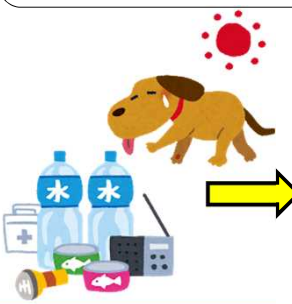


➡ **浸水害が増える可能性があります**

21世紀末には、雨の降らない日が約9日増加すると予測されています。



大東島・沖縄本島地方の日降水量1mm未満の年間日数(1地点あたり)の変化



➡ **渇水リスクが高まるかもしれません**

地球温暖化がそのまま進むと、農林水産業への影響、熱中症の拡大、災害の増加、渇水などが心配されるようになります。

省エネルギーにつとめる（緩和策）だけでなく、温暖化を見越した対策（適応策）が必要になってきているのです。



このリーフレットへのお問い合わせは
南大東島地方気象台 電話 09802-2-2006

沖縄地方の気候のこれまでの長期変化傾向と将来予測の詳しいデータ・情報は、
沖縄気象台ホームページの「沖縄の気候変動監視レポート」に掲載しています。
https://www.jma-net.go.jp/okinawa/data/kiko/climate_report_okinawa.html

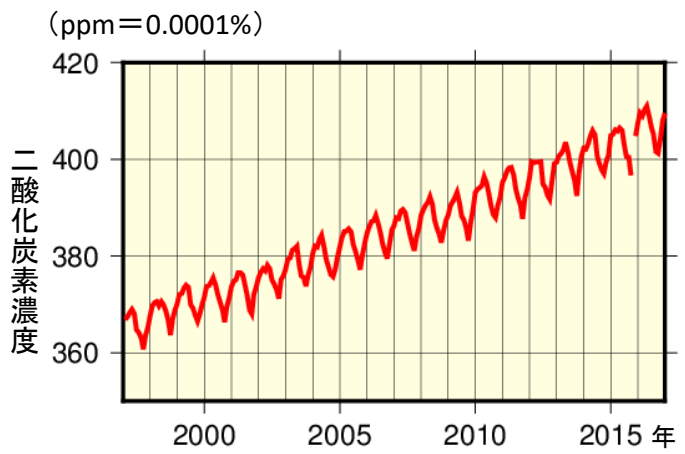


※このリーフレットは印刷用の紙へリサイクルできます。（平成31年2月発行）

もう始まっています！ 地球温暖化 ～大東島地方の気候変化と将来予測～ （南大東島・北大東島）



はじめまして。南大東島地方気象台の「はれるん」です。
石油・石炭を大量に消費したために、
大気中の二酸化炭素（CO₂）などが増加し、
温室効果によって、地球温暖化が引き起こされています。



気象庁では、与那国島（沖縄県）、
綾里（岩手県）、南島（東京都）の
国内3か所で二酸化炭素（CO₂）などの
温室効果ガスを観測しています。

与那国島の二酸化炭素濃度の月ごとの変化

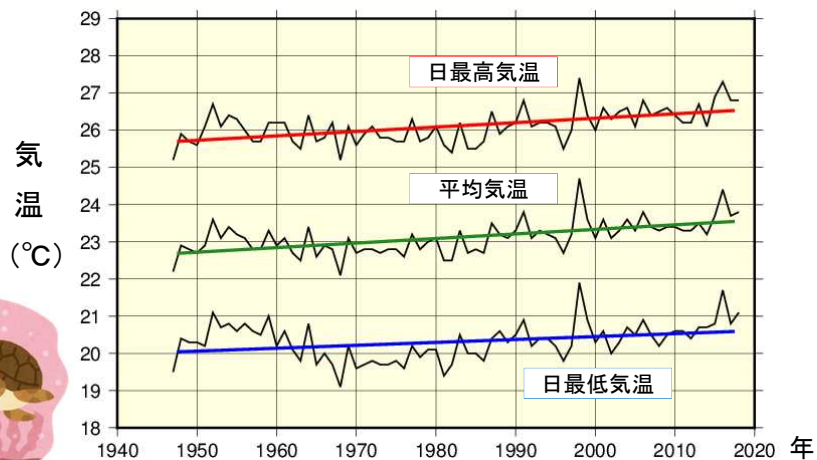
大東島地方では、地球温暖化の進行に伴って、
どのように気候が変化してきたのでしょうか？
将来、気候はどのように予測されているのでしょうか？



大東島地方でも
すでに気温は高くなっています（2ページ）。
将来、気温はさらに上昇し（3ページ）、
大雨が増えると予測されています（4ページ）。

大東島地方 気温が上昇しています 短時間の大雨もよく降ります

南大東島では、平均気温が50年あたり約0.6℃の割合で上昇しています。最高気温や最低気温も上昇しています。



南大東島の最高・平均・最低気温の年ごとの変化
 黒線:年ごとの平均 赤線:最高気温の長期変化傾向
 緑線:平均気温の長期変化傾向 青線:最低気温の長期変化傾向



大東島地方 将来 気温がさらに上昇します 35℃以上の猛暑日が頻発します

(沖縄本島地方を含む)

(※現状の対策のままで温室効果ガスの排出が続いた場合の予測)

21世紀末には、各地で平均気温が約3℃上昇すると予測されています。



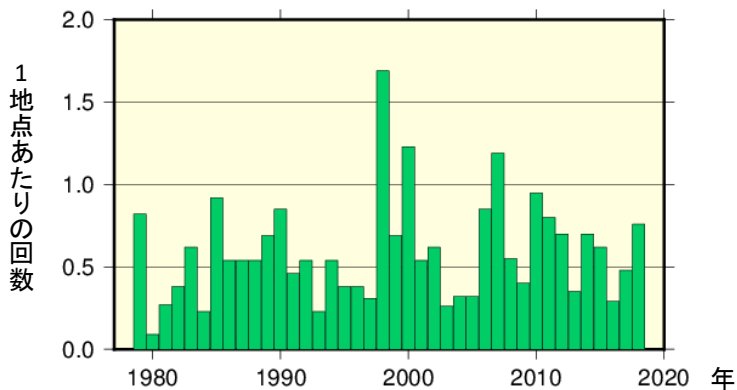
20世紀末
(1980~1999年)
に比べて

21世紀末
(2076~2095年)
約3.3℃上昇

大東島・沖縄本島地方の
平均気温の変化

農林水産業や生き物への影響が心配されます

大東島・沖縄本島地方では、滝のように降る雨（1時間降水量50mm以上）の回数が、年ごとに大きく変動しますが、平均すると全国平均の約3倍です。



大東島・沖縄本島地方の1時間降水量50mm以上の年間回数の年ごとの変化
 棒グラフ:年ごとの値



21世紀末には、これまでほとんどなかった猛暑日（最高気温35℃以上）が各地で現れるようになり、約49日になると予測されています。

20世紀末
(1980~1999年)
約0日

21世紀末
(2076~2095年)
約49日

大東島・沖縄本島地方の
猛暑日(最高気温35℃以上)の年間日数の変化



熱中症が多くなる可能性があります